

市立

いちかわ 自然博物館だより

令和元年(2019年)

8 - 9 月号

(通巻 183号)

2019年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

コガタスズメバチ
強風で落ちた巣が壊れ、中がよく見え
ました。ハニカム構造の巣が数層に重
なり、部屋には幼虫や繭が見えます

P1 ☀️ いきもの写真館
コガタスズメバチ

P2 ☀️ 明治時代の地形と土地利用
柏井台と大柏谷
/ 3

P4 ☀️ いちかわの植物 30年
キクモ・イヌゴマ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
南大野・こざと公園 スイレンとコウホネ

☀️ くすのきのあるバス通りから
スズメにだまされた

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
おとなが驚くトビモンオオエダシャク

P7 ☀️ わたしの観察ノート
5月～6月の記録

P8 ☀️ 行事案内

博物館だよりはホームページでもご覧いただけます。

明治時代の地形と土地利用

柏井台と大柏谷

柏井台は、中山、若宮から奉免町、柏井町へと続く台地の呼び名です。さらに船橋市側へ続いていて、木下街道が通っています。大柏谷は、この柏井台と、前号で取り上げた曽谷台には含まれた、大きな谷です。

明治時代の土地利用図

右ページの図は、1880（明治13）年の地形図に、土地利用ごとに着色をした土地利用図です。明治のころは地形と土地利用が密接に関連していて、台地の上に畑が広がり、谷に面した斜面に林、斜面を下りた場所には水田が広がっていました。水はけのいい台地に水田は作れないし、湿った谷底に畑はできないからです。

畑があった場所

図中、「畑」と書かれた場所は大きく2か所あります。図の①と②で、①が中山、若宮、本北方あたり、②が柏井町、奉免町あたりです。①と②はひと続きの台地ですが、③で示した大きな谷で隔てられているようにも見えます。市川市域にこだわらず台地全体を広域的に見れば①と②が③の谷に分けられていることは些細なことですが、人びとの暮らしという視点で見れば大きなことでもあります。実際、谷で隔てられた両側は、町名が違っています。異なるコミュニティーというわけです（③の谷奥、Aで示した場所は唱行寺です）。

大柏谷

③の谷は、そのまま大きな谷④につながっています。これが大柏谷です。現在は大柏川という1本の川が流れていますが、明治時代の図には2本の流路（図中B、C）が描かれています。右ページの図では範囲外になっていて見えませんが、Bの流路は現

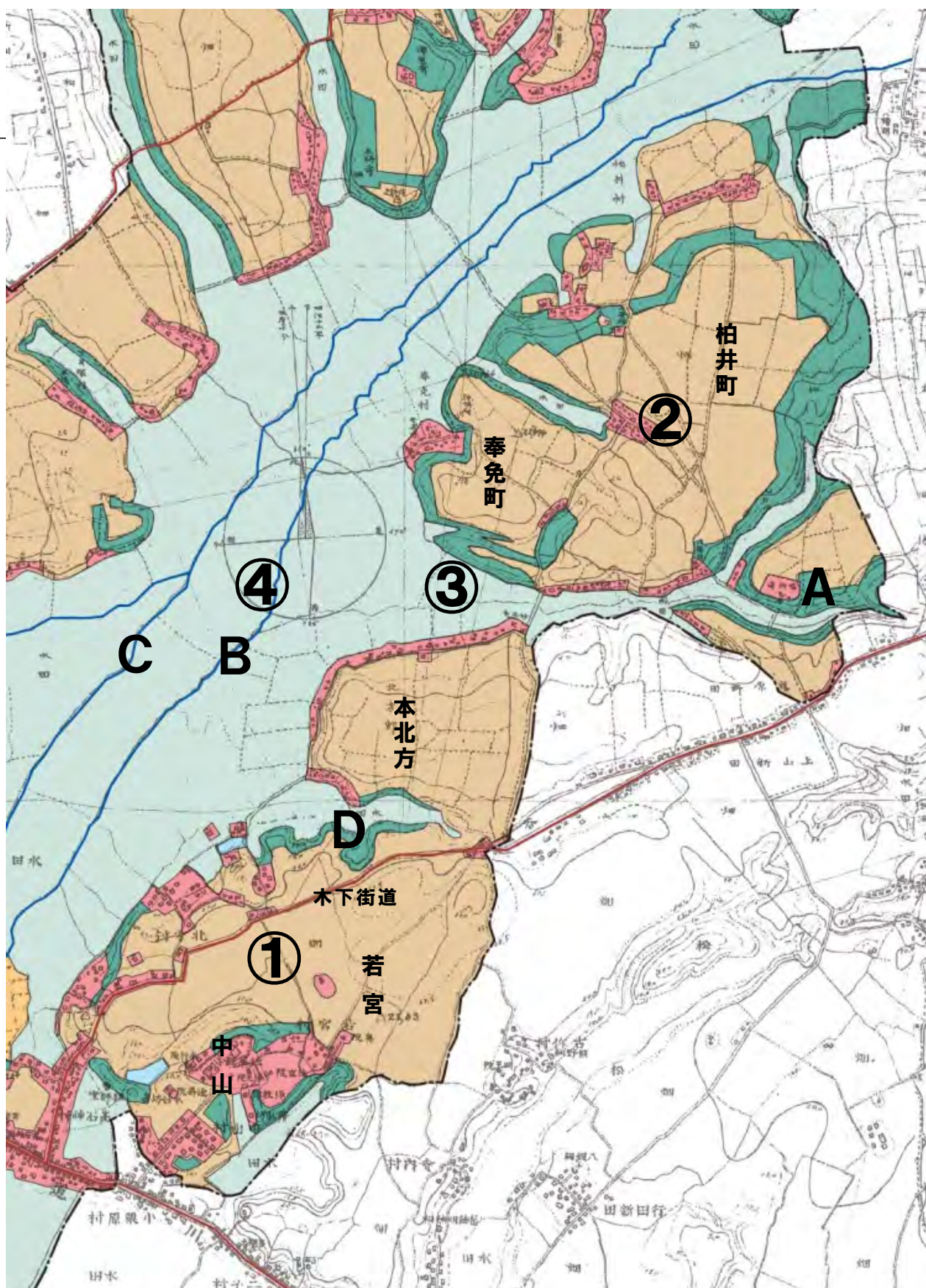
在の鎌ヶ谷市方面から流れて来て、八幡付近で市川砂州にぶつかって終わっています。Cの流路は長田谷津（大町公園の自然観察園）方向から来て、そのまま行徳へとつながる「内匠堀」の流路になっています。ただ実際は、④の大柏谷全体に水田が広がっていたので、水の動きを1本や2本の流路に限定することにどれだけ意味があるかは疑問です。谷全体に網の目のように水路が巡らされていて、線ではなく面として水は動いていたと思われるからです。

美濃輪湧水

台地に切れ込んだ細い谷は、湧水が多いところです。図のDは東部公民館そばの「美濃輪公園」を示しています。かつては「美濃輪湧水」と呼ばれていて、湧き水が多く出ていた場所です。谷を埋め立てずに保全すれば、長田谷津のような場所になったかもしれませんが、そうではないかもしれません（長田谷津は周囲が梨畑で雨水がしみ込みますが、美濃輪公園では住宅地なので、地下水は少なそうだからです）。

まとめ

①②は台地（柏井台）で土地利用は「畑」、③④は谷で土地利用は「田」です。大きな④の谷が大柏谷です。台地の畑と谷の水田の境の斜面は林で、おもに松林だったと思われます。柏井台は、船橋市側まで広がる大きな台地で、市川市域には大柏谷に接する端っこの部分が含まれています。



1880（明治13）年の柏井台の土地利用図 市域外は着色していません。
 「市川市史自然編 都市化と生きもの」P47 図2-2-3より一部抜粋して使用

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

キクモ

稲刈りが終わった田んぼで群生する植物です。いわゆる水田雑草で、田んぼのような環境を好みます。

写真は、長田谷津(大町公園の自然観察園)で撮影したものです。もともと田んぼだった場所ですから、かつては水田雑草が普通に生育していたのです。

現在進めている長田谷津の再整備では、かつての風景を取り戻すことを目標にしています。風景は取り戻せても消えた生物が戻ってくる保証はありませんが、せめてキクモくらい再生させたいと思っています。



キクモ(1986 年 9 月 18 日)
長田谷津

イヌゴマ

ピンク色というよりも、淡い桃色という表現がふさわしい色の花を咲かせる野草です。湿った場所を好みますが、キクモのような水田雑草ではなく、むしろ水田周辺の湿った草むらなどに生えます。江戸川と、坂川のかつての河道が合流する一帯(国府台 3 丁目)は湿った場所を好む野草の宝庫で、写真はそこで撮影したものです。現在も、もう少し下流の江戸川河川敷では見られます。かつて田んぼだった住宅地に、ひょっこり現れることもあります。



イヌゴマ(1986 年 7 月 21 日)
国府台 3 丁目の坂川旧河口



街かど自然探訪

おじゃまします!

みなみ おお の

南大野・こざと公園

スイレンとコウホネ

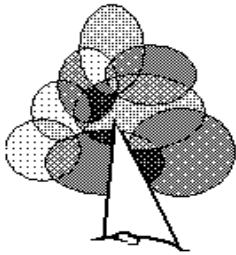
マンションや住宅に囲まれた、二つの大きな池とその周遊路がこざと公園です。昼少し前にゆくと、白やピンクのスイレンの花がポツンぽつんと咲いていて、きれいでした。スイレンの葉は、水面に浮んだ切込みのある丸い形です。水面から突き出している楕円形の葉は、コウホネの葉です。どちらも浅い水辺が好きな植物で、根と茎は水中にあるので見えません。葉が混じっていると、どちらの花かわかりづらいです。コウホネの黄色い花は、残念ながら見つかりませんでした。



△ スイレンとコウホネ(スイレン科)

白っぽく見えるのがスイレンの花

手前はスイレンの葉だが、花はコウホネの葉の中で咲いている。奥に見えるのはすべてコウホネの葉。



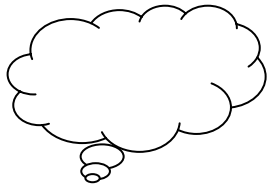
くすのきのあるバス通りから No.125

スズメにだまされた

朝、娘は出勤、私はゴミ出しに門を出ると、我が家の低い塀に、スズメがいました。左の羽だけ開いていました。「この時期、巣から落ちたヒナかな。飛び立たないし、ケガをしたかな。親が見守っているらしいね」と二人で見えていましたが、「後はよろしく」と娘は行ってしまいました。よろしくって・・・塀の上にセキセイインコのエサをちょっと置くと、飛び立たずに少

し遠ざかります。その後、二階から洗濯物を干す時、下を見ると、エサをついばんでいる様子でした。そして飛んで行ってしまいました。自然博の方にスズメの写真を見せると「親ですよ。擬傷、擬傷。今のコスズメは羽がもっと白くてフワフワ」と。しばらくの間、「野鳥にエサをやってしまった。スズメにだまされた」と気持ちが落ち込みました。

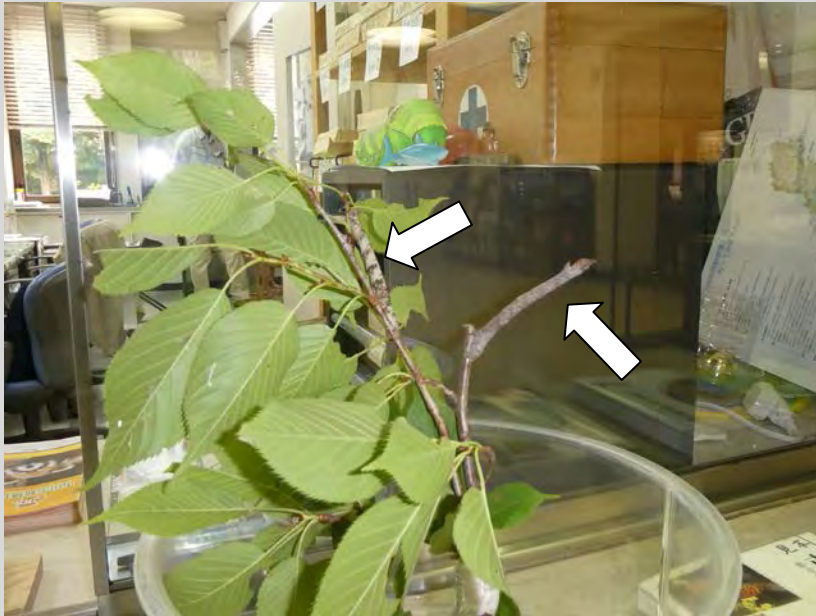
(M. M.)



展示室

No.27

飼育生物の話題



おとなが驚く
トビモンオオエダシャク

蛾に詳しいかたが、トビモンオオエダシャクの幼虫を持ってきてくださいました。昨年もヤママユの幼虫をいただいてインパクトのある展示ができましたが、今回のものは、より一層、衝撃的です。「おもしろいものは、すぐ展示」という方針ですので、直ちに展示しました。

トビモンオオエダシャクはシャクガの一種で、幼虫はいわゆる尺取虫です。指で長さを測るような歩き方も愛嬌がありますが、静止時の擬態も見事です。トビモンオオエダシャクの体色は褐色系で、木の枝に擬態します。上の写真には2匹が写っています（矢印で示しました。でも、写真ではうまく表現できないですね）。

速攻で作った展示は、桜の枝をビンに挿して幼虫を止まらせただけです。工夫したのは置き場所です。事務室のカウンターにしました。解説が必要と思われたからです（ヘラクレスオオカブトと同じ扱いですが、こちらは盗難防止でカウンター付近に置きました）。

実際、けげんな顔でのぞきこむ人が多く、これですよと教えてあげると、えーと驚かれます。小さなお子さんにとっては擬態が完璧すぎて、これだよ、と教えてなお、虫には見えないみたいです。???がぐるぐるしています。



◆長田谷津より

- ・クロオオアリの新女王とオスが結婚飛行のために、巣から出てきていました(5/10)。少し高くなっているところまで登り、上空に飛び立っていきました。クロオオアリの他にミカドオオアリとヨツボシオオアリも同じく結婚飛行を行っていました。

稲村優一(自然博物館)

- ・おやこ自然観察会で、ホトケドジョウの幼魚がたくさん捕れていました(5/12)。今年も繁殖に成功したようで、よかったです。

金子謙一(自然博物館)

- ・ヨシが群生している上を、アオヤンマが旋回していました(5/24)。シルエットが他のヤンマと異なり、腰のくびれがありません。

藤川大輔(自然博物館)

- ・三角池の淵をオオヤマトンボが飛んでいました(6/21)。このところ見られているようです。オニヤンマにそっくりですがずんぐりしています。
- ・エナガ、シジュウカラ、メジロを主体とした混群にキビタキの幼鳥が混ざっていました(6/28)。しばらく観察しましたが周りに親鳥はいませんでした。長田谷津で繁殖したと断定はできませんが、その可能性はとても高いと思います。まだ渡りの時期ではないため、少なくとも長田谷津近隣で繁殖したものでしょう。

◆大野町より

- ・朝の出勤時、市川大野駅の近くでツバ

メ20羽ほどがけたたましく鳴きながら飛んでいました(6/14)。小型の猛禽類ツミを追い払っているようで追いかけてまわしていました。このように天敵を追い払う行動をモビングと言います。

以上 稲村優一

◆柏井町2丁目緑地より

- ・ボランティアの人たちの手で明るく保たれた林でニガナが群生していました(5/22)。趣のある黄花がきれいでした。

◆じゅん菜池緑地より

- ・よく花が咲いた植栽のタブノキに、実がついていました(6/8)。実をつける枝が赤くて、緑の葉とのコントラストが目立っていました。

◆江戸川放水路より

- ・今シーズン、はじめてトビハゼの干潟をおとずれました(6/17)。トビハゼがたくさんいました。昨年10月1日未明の台風に伴う猛烈な南風で高潮気味の現象が発生し、その際の波浪で砂泥が攪乱され細かい泥が干潟に沈殿しました。良好な干潟の状態で越冬したためと思われます。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・干潟の淵にマメコブシガニがいました(6/29)。特徴的な見た目と、カニなのに前進する風変りな生態からよく目立ちます。

稲村優一

5月は晴れた日が多く、気温も上がりました。6月7日頃梅雨入りしましたが、雨は少なく蒸し暑い日が多かったです。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

水辺の生きものを自分たちで捕まえて観察します。

おやこで楽しめる自然観察会です。

- ・場 所 自然観察園
- ・時 間 午前10時～12時
- ・定 員 各回とも、先着 親子20組
親子対象です。

日にち	受付開始日
-----	-------

9月15日⑥	8月17日より
--------	---------

お申込み方法

受け付け開始日以降に
往復はがきに参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「〇月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日 時 9月7日④、10月5日④、11月2日④、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日 時	集 合 場 所
初秋の江戸川土手	9月22日⑥午前10時～11時30分	里見公園正門 午前10時
秋の田んぼ	10月20日⑥午前10時～11時30分	動物園券売所前 午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいませんか。

(雨天中止)

- ・日 時 9月29日⑥、10月27日⑥、11月24日⑥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けを
お手伝いして下さいませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日 時 9月8日⑥、10月6日⑥、11月3日⑥、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第31巻 第3号 (通巻第183号)

令和元年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477